

1、園の教育目標

年長・・・日々の生活に必要な習慣や態度の意味が分かり、自主性や協調性を持って集団生活を送る

年中・・・自分の思っていることを伝えたり、相手の思いを聞いたりして互いに伝え合うことを喜ぶ

年少・・・園生活の流れやルールを知り、身の回りのことを自分で行えるようにし、保育者や友達と楽しく過ごす

2、具体的な目標や計画

生涯にわたって成長を支える「主体性」を保育者や友達との関わりの中で育むと共に自分の気持ちを調整する力を養っていく

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果 (※)	結果の理由
遊びを通して周囲と協調しながら自己発揮できる力が育ったか	B	保護者の意識や取り巻く環境の違いを念頭におきながら、ひとりひとりの個性に応じた指導を心掛けた。しかし、年齢差や個人差が大きいのは否めない
思った事を伝えたり相手の意見を聞いたりしてイメージを共有して遊びを楽しめたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・友達を誘い合ったり自分から入ったりして集団遊びの楽しさを感じるようになった ・自分の思いを伝える喜びや友だちの話を聞く楽しさが感じられるようになった。ただ個人差があり、言葉として表現することが難しい子もいる
基本的な生活習慣を丁寧に自らの力で行えるようになったか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の繰り返しの中で子どもの育ちを確かめながら根気よく見守っていった ・カバンや道具箱など身の回りの整理整頓が出来ているか振り返り、自ら生活を見直せるような助言を心掛けた
様々な体験を通してやり遂げた満足感を味わえたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に親しみ合奏を通して自分の楽器を繰り返し練習して出来るようになることで大きな自信につながった ・運動会やお遊戯会など共通の目的に向かって十分に力を発揮しやり遂げた達成感を味わうことができた ・いろいろな分野で自分なりの目標に向かって取り組む姿を励まし、認めることで満足感につながっていたように思う

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	幼稚園は子どもにとって、社会生活の第一歩であり、小学校での学ぶ力の土台を、どう育むかが大きな課題といえます。人の話を最後まで聞く力は、どの場面においても重要であり、更に行動に結びつける力は幼児期に身に付けるべき大切な力です。その力が育つためには話す側の力量も問われます。様々な場面において保育者なりに工夫しながら伝えつつありますが、どのように促せば子どもに伝わるのか、子どもの気持ちになって振り返りを大切にしなければと思っています。常に試行錯誤と反省の繰り返しです。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
配慮が必要な子どもへの対応	全職員が情報を共有し、それぞれの子どもの個性を把握し、接していく。また、家庭とも連絡を密にとりながら状況に応じた的確な対応を心掛ける
保育者の相互理解と協力体制を整える	次年度3名の保育者が入職するにあたり全職員でマニュアルを再確認していく 年齢、経験の隔たりなく話し合える雰囲気大切に。また、それぞれの役割が十分機能できるよう職員間で報告連絡相談がスムーズに行われるような協力体制をとっていく
小学校との連携を充実させていく	コロナも一段落し、交流の機会も増えつつあるので小学校参観なども積極的に参加し、入学後の子ども達の姿を知ることで保育活動の指針としていく